

守山での戦争の悲劇

守山空襲 昭和20年(1945年)7月30日午後4時頃

古くから中山道の宿場町として栄えた守山は、ホテルが舞い飛ぶ清流の町でした。豊かな水田が広がる守山では、戦時中にあっても、都会ほど食糧事情がひっ迫しておらず、大阪市からの疎開児童を受け入れるなど、つらい時代にあっても比較的、平和な日常の暮らしがありました。

昭和20年(1945年)7月30日午後4時頃、守山はアメリカ軍空母ハンコックから発進した戦闘機4機によって空襲を受けました。守山駅を発車した列車を狙った機銃掃射によって、乗客や駅周辺の人々が犠牲となりました。その数は、確認されているだけで死者11名、負傷者22名。県内の空襲被害としては、大津市の東洋レーヨン滋賀工場に落とされた模擬原爆に次ぐものでした。



自宅の防空壕で避難する家族 (岩井知子さん作画)



アメリカ軍戦闘機コルセア

▲当時の守山駅

証言 3

学徒勤労働員と戦後の教育

立田町の住民
もりた えみこ
森田恵美子さんの証言



滋賀師範学校女子部の頃、学徒勤労働員で工場に…

私は、昭和18年に河西国民学校高等科(現中学校)を卒業しました。その卒業式の思い出です。今ならば「蛍の光」「仰げば尊し」を歌って巣立ちます。ところが第二次世界大戦の最中でしたので、「海ゆかば」を意味もわからず歌って卒業しました。

そして14歳の私は、学校の先生になるために夢をもって滋賀師範学校女子部予科に入学しました。1年生の時は学校で授業を受け、2年生の時から学徒勤労働員として、当時、草津にあった敷島帆布(しきしまはんぷ)株式会社(現:シキボウ株式会社)に行きました。そこでは兵士が使用する背囊(はいのう)などの布やズックを織っていました。敷島帆布には、80人ほどの生徒が働いていました。多くの生徒は寮生活をし、会社では、皆が日の丸の鉢巻きをし、服装は国民服にモンペとゲートルを巻いていました。

16歳の4月の時だったと思います。当時は、国民総動員令で学業を捨てて工場に動員されました。それが当たり前とっていました。その年の8月に終戦となり、やっと学校に戻って勉強することができた時はとても嬉しかったことを覚えています。



学徒勤労働員時、日の丸の鉢巻きをし、国民服にモンペとゲートルを巻いて働いていた森田さん

卒業後は、教師として働きました。戦後の教育は大きく変わり、軍国主義的・国家主義的思想の部分には、墨塗りして削除された教科書が使われました。その一方で、今まで習わなかった児童心理など児童の活動を中心にした新しい指導法がどんどん入ってきました。

私が小学校で4年生を担当した時、37人のクラスのうち7人のお父さんが戦死されていました。私は新しい教育方針についていくことが精一杯で、それらの児童を満足に気にかける余裕がなかったことを今でも後悔しています。

戦後80年が経った現在でも、世界各地では戦争が起こっています。多くの子どもたちが巻き込まれ命を奪われていることはとても悲しくつらいことです。「二度と戦争はだめ」、本当に平和な世の中になることを願っています。令和8年(2026年)1月20日取材

引き継ぎたい平和の尊さ

平和のよろこび展

戦争の悲惨さを遺品や手紙、写真、資料などの展示を通じて訴え、平和の尊さを次の世代へ伝承します。



詳しくはWebをチェック!

平和を誓うつどい

平和の広場において、広島原爆忌である8月6日に毎年開催しています。平和の喜びと尊さを認識し、核兵器の廃絶と世界の恒久平和の実現を願います。



詳しくはWebをチェック!

証言 1

病室となった我が家

守山駅周辺の住民
にしき としこ
故 西木とし子さんの証言記録



ようやく飛行機の音がなくなったので、家の外に出てみたんです。駅前通りを他人の肩に寄り掛かり、よろよろとこちらへ歩いて来る幾組もの人の姿が見えました。

「何が起こったの?」としばらくは訳が分かりませんでした。機銃掃射で負傷した人たちでした。太田医院へ入る人、またもう少し歩き、先の西藤小児科に向かう人たちでした。

しばらくすると、病院も満員になったらしく「すみませんが、あなたの家に寝かせてやってください」と頼まれたんです。早速、むしろを取りにいて玄関の2間ほどの土間に負傷者を寝かせました。でも、また負傷者が入ってくる。引き違い戸を外し、サル戸も外し、お勝手にもむしろを敷いて1人2人と寝かせていきました。ついに4畳半の部屋にも負傷者が入り、合計5人の負傷者が家に寝かされました。母と私と妹の女ばかり3人が家で負傷者の世話をしましたが、「どうもないですか」とたずねても、大抵の人は「うー、うー」とうなっているばかりでした。

負傷者たちは夜暗くなってから、近くの病院に移されて行きました。夕御飯を食べようとしたのですが、畳の上に血が流れている部屋の中では全く食欲は出ませんでした。太田医院の近くを通ると、麻酔なしで負傷者の手術をしているのか、何度も悲鳴が聞こえたので怖くて飛んで逃げました。

(山川芳志郎さん 資料提供)

聞いてみよう
戦争体験談

市のホームページで戦争体験者の貴重な証言動画を配信しています!!

